

臨床研究「大後頭孔周辺の硬膜動静脈瘻の血管構築：
骨内シャントの形態と治療結果に関する研究」について

筑波大学附属病院脳卒中科では、標題の臨床研究を実施しております。

本研究の概要は以下のとおりです。

① 研究の目的

動脈と静脈が直接交通し、圧の高い動脈の血液が静脈に流れ込む動静脈瘻という病気のうち大後頭孔周囲、特に頸管静脈系周囲の骨内に病変がある場合があります。この病変は、様々な症状を呈する可能性があり、治療法としては血管内治療（塞栓術（そくせんじゅつ））を行われる機会が増えています。しかし、まれな病気で、その報告症例数も少なく、多数例で包括的に調べられた報告はなく、いまだ不明な点も多くみられます。本研究の目的は、大後頭孔周囲の硬膜動静脈瘻症例において骨内シャントを形成する頻度とその解剖、治療結果を検討し、その病態の解明や治療法の確立に繋げることです。

② 研究対象者

この研究は以下の方を研究対象としています。

2013年1月1日～2022年3月31日までに本院で脳血管撮影検査を受け、頸管静脈系の硬膜動静脈瘻と診断された方

③ 研究期間：（倫理委員会承認日）～2023年12月31日

④ 研究の方法

脳血管撮影検査を受け、頸管静脈系の硬膜動静脈瘻と診断された脊患者さんの、下記（⑤）の診療情報を調査します。通常の診療範囲内で行われる登録研究です。

⑤ 試料・情報の項目（具体的に記載すること）

- ・ 年齢、性別
- ・ 病変の血管構築
- ・ 治療内容
- ・ 治療結果

⑥ 試料・情報の第三者への提供について（該当する場合は記載）

医療データは、患者さんを直接特定できる情報（お名前やカルテ番号など）を削除して匿名化しますので、当院のスタッフ以外が当院の患者さんを特定することはできません。

この研究成果は学会や学術雑誌などで発表することがありますが、その場合でも上記のとおり匿名化していますので、患者さんのプライバシーは守られます。医療データの登録を拒否された場合には、拒否された患者さんのデータは削除します。なお、この研究は、国の定めた指針に従い、当院の研究倫理審査委員会の審査・承認を得て実施しています。

⑦ 試料・情報の管理について責任を有する者

⑧ 研究機関名および研究責任者名

岡山大学 研究責任者氏名：平松匡文 脳神経外科助教
久留米大学 研究責任者氏名：田上秀一 放射線科准教授
大分大学 研究責任者氏名：徳山耕平 放射線科助教
筑波大学 研究責任者氏名：松丸祐司 脳神経外科脳卒中予防治療学講座教授
聖路加国際病院 研究責任者氏名：新見康成 神経血管内治療科部長
東海大学 研究責任者氏名：Kittipong Srivatanakul 脳神経外科講師
慶応大学 研究責任者氏名：水谷克洋 脳神経外科助教
熊本大学 研究責任者氏名：清末一路 画像動態応用医学共同研究講座教授
富山大学 研究責任者氏名：秋岡直樹 脳神経外科准教授
藤田医科大学 研究責任者氏名：中原一郎 脳神経外科教授
京都大学 研究責任者氏名：石井 暁 脳神経外科特定准教授
広南病院 研究責任者氏名：松本康史 血管内脳神経外科部長
虎の門病院 研究責任者氏名：鶴田和太郎 脳神経血管内治療科部長
昭和大学藤が丘病院 研究責任者氏名：津本智之 脳神経外科教授

⑨ 本研究への参加を希望されない場合

患者さんやご家族（ご遺族）が本研究への参加を希望されず、試料・情報の利用又は提供の停止を希望される場合は、下記の問い合わせ先へご連絡ください。すでに研究結果が公表されている場合など、ご希望に添えない場合もございます。

⑩ 問い合わせ連絡先

筑波大学附属病院：〒305-8576 茨城県つくば市天久保 2-1-1
所属・担当者名：脳卒中科 松丸祐司 細尾久幸
029-853-3900（平日9～17時）